

2020 年度 調査研究活動報告書

広島修道大学ひろしま未来協創センター長 殿

研究(代表)者所属 : 商学部

研究(代表)者名 : 政岡 孝宏

下記のとおり今年度の調査研究費による調査研究が終了しましたので、ここに報告いたします。

当該研究期間	2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの 1 年間分		提出年月日	2021 年 2 月 25 日	
研究課題	【ひろみら領域研究・ひろみら特別研究】 広島倒産企業の研究				
研 究 組 織	研究代表者及び研究分担者		役 割 分 担		
	氏 名	学部・職名			
	(研究代表者) 政岡 孝宏	商学部・教授	研究代表者		
	(研究分担者) 該当者なし	学部・			
(代表者・分担者計 1 名)					
今 年 度 の 研 究 成 果 要 旨	※要旨の文字数は 600～800 字程度でお願いします。 本調査研究は、広島に本社を有する上場企業の倒産事例 2 社（キョーエイ産業、アーバンコーポレイション）に焦点をあて、倒産企業の実態を個別に分析することを目的とした研究である。2 年目にあたる今年度は、当初の計画通り、広島本社の上場倒産企業 2 社のうち、キョーエイ産業の分析を中心に実施した。同社の有価証券報告書等の情報に基づいて、倒産に到る沿革を整理し、かつ同社の主力事業たる一括借上・家賃保証システムについて検討した。また検討を進めていく上では、前年度の研究対象であったアーバンコーポレイションにおける調査手法を継承した。まず事例分析として、キョーエイ産業が他社に先駆けていち早く着目をしていた一括借上・家賃保証システムの構造や問題点を概観するとともに、事業区分別の売上高、当期純損益、粗利率を経年比較・分析した。その結果、キョーエイ産業では売上高が急増したものの、損益が売上高の動きに反してマイナスに転じていたことを指摘した。この点については、2006 年 3 月期から東京への本格進出を機に不動産流動化事業に本格的に着手していることから、先のアーバンコーポレイションの事例と同様の非財務情報として、地価の情報に手がかりに分析を進めた。その結果、アーバンコーポレイション同様、業績の推移と地価の推移について一定の関係性があることを明らかにした。さらに、アーバンコーポレイションとは異なる売上高の増大にもかかわらず、損益がマイナスに転じ、最終的に赤字転落した要因として、①加藤組の子会社化による人員増で販管費が増加したこと、②有利子負債が膨らんだことで金利負担が重くなったこと、③販売用不動産を換金売りした際に処分損が生じたことの 3 点を明らかにした。加えて、用地等の取得の財源を有利子負債にたよった経営であったことが最終的にキョーエイ産業を倒産に追い込む結果になったことを指摘した。本研究の成果については、次年度の本学紀要に成果をまとめて投稿予定である。				
成 果 発 表 予 定	発 表 論 文 題 目	広島倒産企業の研究 (2) ——キョーエイ産業 (株)			
	発表誌名 発表学会名	発行所 学会名	発表時期	備 考	
	<記入例> 広島修大論集—人文編—第 00 巻 00 号 修道商学 第 62 巻 1 号	<記入例> 広島修道大学人文学会 広島修道大学商学会	年 月 2021 年 9 月 (予定)	pp.00—00 未定	
※研究期間が 1 年未満の場合、本用紙を調査研究完了報告書と兼ねることができます。 (成果発表報告時 研究代表者使用欄) ☐ 上記の通り成果発表を 行う ・ 行った (ひろしま未来協創センター使用欄) ☐ 成果発表資料を受け取った。(年 月 日)					

2020 年度 調査研究活動報告書

広島修道大学ひろしま未来協創センター長 殿

研究(代表)者所属 : 商 学部

研究(代表)者名 : 矢野 泉

下記のとおり今年度の調査研究費による調査研究が終了しましたので、ここに報告いたします。

当該研究期間	2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの 1 年間分		提出年月日	2021 年 3 月 1 日	
研究課題	【ひろみら領域研究】 地方都市における卸売市場の運営形態と流通機能の関係 ー改正卸売市場法下の業務規程の比較を中心にー				
研 究 組 織	研究代表者及び研究分担者		役 割 分 担		
	氏 名	学部・職名			
	(研究代表者) 矢野 泉 (研究分担者)	商学部・教授	研究の計画、遂行、とりまとめ等全般		
	(代表者・分担者計 1 名)	学部・			
今年度の研究成果要旨	※要旨の文字数は 600～800 字程度でお願いします。 申請時研究課題は「地方都市における卸売市場の運営形態と流通機能の関係ー公設公営市場と民設民営市場の比較ー」であり、全国卸売市場の現地調査と卸売会社経営資料収集等により研究を遂行する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により上記課題への変更を行い、業界誌情報収集とオンライン調査等を実施した。 本研究は、全国的にその運営が見直されている卸売市場について設置者及び運営者の違いとその違いに伴う取引ルール等の相違に注目し、それらが卸売市場の流通機能に与える影響を明らかに目的としたものである。 2020 年度の研究成果は以下の 4 点である。まず第 1 に、2020 年 6 月 21 日の改正卸売市場法施行までの政策審議の流れを整理した。第 2 に、改正法施行に向けて国に認定申請する全国の中央卸売市場における業務規程の修正と取引ルールの作成状況について情報収集し、①業務規程における場内事業者の許認可については約 96%が許可制度を導入と売買参加者の承認については現行維持であること、②取引ルールについては約 90%が従来規制を緩和すること等を明らかにした。第 3 に、地方卸売市場については認定申請を行わない市場が多出していることを明らかにした。第 4 に、中国地方の卸売市場の現状を分析し、中央卸売市場か地方卸売市場か、開設者の官民の違いに関わらず取扱高の低下がみられることを明らかにした。				
成 果 発 表 予 定	発 表 論 文 題 目	改定卸売市場法下の業務規程の比較分析 (仮)			
	発表誌名 発表学会名	発行所 学会名	発表時期	備 考	
	日本農業市場学会 2021 年度大会個別報告 (予定)	日本農業市場学会	2021 年 7 月 (予定)		
※研究期間が 1 年未満の場合、本用紙を調査研究完了報告書と兼ねることができます。 (成果発表報告時 研究代表者使用欄) ☐ 上記の通り成果発表を 行う ・ 行った (ひろしま未来協創センター使用欄) ☐ 成果発表資料を受け取った。(年 月 日)					

2020 年度 調査研究活動報告書

広島修道大学ひろしま未来協創センター長 殿

研究(代表)者所属 :

人文学部

研究(代表)者名 :

大澤真也

下記のとおり今年度の調査研究費による調査研究が終了しましたので、ここに報告いたします。

当該研究期間	2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの 1 年間分		提出年月日 2021 年 2 月 26 日	
研究課題	【ひろみら領域研究】 日本人英語学習者の語用論的能力測定のための尺度および教材開発			
研 究 組 織	研究代表者及び研究分担者		役 割 分 担	
	氏 名	学部・職名		
	(研究代表者) 大澤真也	人文学部・教授	研究の統括および教材開発	
	(研究分担者) Ronald James	人文学部・教授	尺度・教材開発	
	大木七帆	北海道科学大学・助教	尺度の開発および実態調査	
組 織	(代表者・分担者計 3 名)			
今 年 度 の 研 究 成 果 要 旨	※要旨の文字数は 600~800 字程度でお願いします。 本研究は 2020 年、2021 年の 2 年計画で実施するものであるが、1 年目である 2020 年度の主な目的は情報収集であった。具体的には (1) 本学末契約のオンライン・ジャーナルの購読、(2) 語用論研究の専門家を招聘しての意見交換会の実施、を予定していた。しかしながらコロナ禍により、研究計画の大幅な変更を余儀なくされた。(1) については <i>Corpus Pragmatics</i> をはじめとして、本学図書館が末契約の 4 冊のジャーナルを購読し情報収集に努めた。(2) については本学に専門家を招聘することが困難であったため、2020 年 9 月 10 日、2021 年 2 月 25 日、にビデオ会議システムを利用して 2 回 (計 10 時間) の意見交換会を実施した。それぞれの回において本来であれば接点のなかった方々のお話を伺うこともでき、不自由な点も多々あったものの、オンラインならではのメリットを享受することができた。一方で、2020 年度後半に実施予定であった調査は計画の遅れによって実施できていないため、延期して 2021 年度に実施する予定である。 計画に大幅な遅れが生じたため、研究成果として形になったものはまだないが、2021 年 6 月に実施される国際大会に発表申し込みをした結果、発表が受理されている。今後、研究分担者およびその他の専門家と連携を取りつつ、国際学会発表及び論文文化につなげていきたい。			
成 果 発 表 予 定	発 表 論 文 題 目	Developing an elicited imitation test to assess EFL learners' knowledge of pragmatic routines		
	発表誌名 発表学会名	発行所 学会名	発表時期	備 考
	17th International Pragmatics Conference in Switzerland	International Pragmatics Association	2021 年 6 月	
※研究期間が 1 年未満の場合、本用紙を調査研究完了報告書と兼ねることができます。 (成果発表報告時 研究代表者使用欄) ☐ 上記の通り成果発表を <u>行う</u> ・ 行った (ひろしま未来協創センター使用欄) ☐ 成果発表資料を受け取った。(年 月 日)				

2020 年度 調査研究活動報告書

広島修道大学ひろしま未来協創センター長 殿

研究(代表)者所属 : 経済科学部

研究(代表)者名 : 河合 伸治

下記のとおり今年度の調査研究費による調査研究が終了しましたので、ここに報告いたします。

当該研究期間	2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの 1 年間分		提出年月日 2021 年 3 月 1 日	
研究課題	【ひろみら特別研究】超高齢化社会に向けた地域コミュニティの再構築に関する研究			
研 究 組 織	研究代表者及び研究分担者		役 割 分 担	
	氏 名	学部・職名		
	(研究代表者) 河合 伸治	経済科学部・教授	研究代表者	
	(研究分担者) 迫 一光 浅沼 大樹 塩津 ゆりか 伊藤 健宏 荒井 壮一 (代表者・分担者計 6 名)	経済科学部・准教授 石巻専修大学経営学部・教授 京都産業大学経済学部・准教授 岩手県立大学総合政策学部・准教授 秋田大学教育文化学部・講師	モデル分析 参加思考型の事例研究 市場志向型の事例研究 モデル分析 参加思考型の事例研究・モデル分析	
今年度の研究成果要旨	※要旨の文字数は 600～800 字程度でお願いします。 本研究の目的は、超高齢化社会における諸問題の解決策として社会ネットワーク理論やグラフ理論等で得られている知見を経済学の諸理論を統合して社会活動運営のモデル化を試みるものである。現状の高齢化社会における課題は、地域の衰退、地域コミュニティの崩壊に集約される。従来は、社会保障・補助金・工業団地誘致などを中心にしたトップダウン型の問題解決が図られてきたが、これは現在の国家財政硬直化に繋がった。そこで、我々は、地域住民・企業などステークホルダー(利害関係者)によるネットワークを再構築することでボトムアップ型の問題解決(中央政府からの支援は期待しない自らによる社会サービスの提供)を提案したい。中央・地方府の財政的余力が乏しくなる中で市民レベルでの自立と自律を図り「寛容と共感に基づく調和ある社会資源のシェアリング」を遂行していくために、超高齢社会問題に対する社会科学的アプローチとして、本研究はコミュニティ再生活動のモデル化と検証作業を行うことを目的とする。本年度はコロナ禍の影響で現地調査を行うことが難しかったが、その分先行研究のレビューとアンケート調査の質問項目の精査等に注力して、月 1 回程度の割合で zoom を利用して進捗状況の報告及び得られた成果の共有を行なった。その成果をいかした現地調査をコロナ終息後に速やかに実施し、来年度の経済学研究等に発表する予定である。			
成 果 発 表 予 定	発 表 論 文 題 目	「超高齢化社会に向けた地域コミュニティの再構築に関する研究(仮題)」		
	発表誌名 発表学会名	発行所 学会名	発表時期	備 考
	<記入例> 広島修大論集—人文編—第 00 巻 00 号 経済科学研究 第 25 巻 第 1 号	<記入例> 広島修道大学人文学会 広島修道大学 ひろしま未来協創センター	年 月 2021 年 9 月	pp.00—00
※研究期間が 1 年未満の場合、本用紙を調査研究完了報告書と兼ねることができます。 (成果発表報告時 研究代表者使用欄) ☒ 上記の通り成果発表を <u>行う</u> ・ 行った (ひろしま未来協創センター使用欄) ☐ 成果発表資料を受け取った。(年 月 日)				

2020 年度 調査研究活動報告書

広島修道大学ひろしま未来協創センター長 殿

研究(代表)者所属 : 経済科学部

研究(代表)者名 : 黒坂 健吾

下記のとおり今年度の調査研究費による調査研究が終了しましたので、ここに報告いたします。

当該研究期間	2020 年 6 月 16 日から 2021 年 3 月 31 日までの 1 年間分		提出年月日 2021 年 3 月 1 日	
研究課題	【ひろみら領域研究・ひろみら特別研究】 参加者の私的情報が公共財供給に与える影響に関する実験研究			
研 究 組 織	研究代表者及び研究分担者		役 割 分 担	
	氏 名	学部・職名		
	(研究代表者) 黒坂 健吾	経済科学部・准教授		
	(研究分担者) (代表者・分担者計 1 名)			
今 年 度 の 研 究 成 果 要 旨	※要旨の文字数は 600～800 字程度でお願いします。 公共財の自発的供給のタイミングに関する実験を、10/5～10/13 に関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構にて実施した。実験では参加者を 2 人 1 組のペアにし、2 つのステージからなる意思決定を行わせた。まず第 1 ステージでは、公共財への貢献を先に行うか、あるいは後に行うかについて、各参加者が意思決定を行う。それを受けて、① 2 人とも貢献を先もしくは後に行うとした場合、続く第 2 ステージでは公共財への貢献量について 2 人が同時に意思決定を行う。また、② いずれかの参加者が貢献を先に行い、残り一方の参加者が貢献を後に行うとした場合は、続く第 2 ステージでは各自が選択した順序に従って意思決定を行う。すなわち、前者が公共財への貢献を先に決定し、後者がその貢献量を観察したうえで公共財の貢献を決定する。この実験を 15 回繰り返したのち、15 回目終了後に実験参加者のリスク態度や後ろ向き推論能力に関する測定も行った。 本実験で検証したい命題は、プレイヤーどうして保有している所得に違いがある場合、各プレイヤーが公共財へ貢献するタイミングの選択に影響があるか否かである。理論的には、プレイヤー間の所得格差が大きい場合は、どのような順番で公共財に貢献しても公共財の供給量に影響がないため、各プレイヤーにとって貢献のタイミング選択による有利・不利は存在しない。しかしながら、プレイヤー間の所得格差が小さい場合は、公共財へ先に貢献するプレイヤーが「自分はこれしか貢献できないから、後はあなたが貢献してくれ」というコミットをすることで、後に貢献するプレイヤーよりも得をすることができる。そのため、公共財へ貢献するタイミングとして、先に貢献することを好むようになる。本実験では、所得格差が大きい場合と比べて、格差が小さい場合では、参加者は貢献順の決定で先に貢献することを選ぶことが観察され、上記の理論予測はおおむね支持された。			
成 果 発 表 予 定	発 表 論 文 題 目	Endogenous Timing and Income Inequality in the Voluntary Provision of Public Goods: Theory and Experiment		
	発表誌名 発表学会名	発行所 学会名	発表時期	備 考
	<記入例> 広島修大論集—人文編—第 00 巻 00 号 日本経済学会 2020 年秋季大会	<記入例> 広島修道大学人文学会 日本経済学会	年 月 2020 年 10 月	pp.00—00 オンライン開催
※研究期間が 1 年未満の場合、本用紙を調査研究完了報告書と兼ねることができます。 (成果発表報告時 研究代表者使用欄) ☐ 上記の通り成果発表を ☐ 行う ・ 行った (ひろしま未来協創センター使用欄) ☐ 成果発表資料を受け取った。(年 月 日)				

2020 年度 調査研究活動報告書

広島修道大学ひろしま未来協創センター長 殿

研究(代表)者所属 : 経済科学部

研究(代表)者名 : 新宅 公志

下記のとおり今年度の調査研究費による調査研究が終了しましたので、ここに報告いたします。

当該研究期間	2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの 1 年間分		提出年月日 2021 年 3 月 1 日	
研究課題	【ひろみら領域研究・ひろみら特別研究】 企業の異質性を考慮した FDI 誘致政策の効果の理論的解明			
研 究 組 織	研究代表者及び研究分担者		役 割 分 担	
	氏 名	学部・職名		
	(研究代表者) 新宅 公志	経済科学部・准教授		
	(研究分担者) 無し			
織	(代表者・分担者計 1 名)			
今 年 度 の 研 究 成 果 要 旨	※要旨の文字数は 600～800 字程度でお願いします。 本研究プロジェクトの目的は、FDI 誘致政策は誘致国の市場にどのように影響を与えるか？最適な誘致政策とはどのようなものか？を理論的に解明し、数値的にシミュレーションすることである。 先行研究である Chor (2013) “Subsidies for FDI: Implications from a model with heterogeneous firms” <i>Journal of International Economics</i>, 78, 113-125. を参考に、二つの単純化をしたモデルを構築する。一つ目の単純化は、誘致国は小国であると想定することである。二つ目の単純化は、自国の賃金率を固定することである。これらの単純化により、自国企業の対外進出のモード変化（ローカル → 輸出、輸出 → FDI）を消すことができる非常にシンプルなモデルを構築することができた。 このようなモデルによって、社会厚生を最大化する FDI 政策とは、外国の外資企業に負の補助金を課すことが示された。つまり、最適な外資誘致政策とは、外資企業に税金を課し、部分的に参入を抑制することである。 以上の定性的な分析に加えて、定量的な分析も行った。この定量分析については、やや捉えきれていない重要な変数があり、改良の余地がある。			
成 果 発 表 予 定	発 表 論 文 題 目	Optimal Inward FDI Policy under Firm Heterogeneity and Fixed Wage in a Small Economy		
	発表誌名 発表学会名	発行所 学会名	発表時期	備 考
	<記入例> 広島修大論集－人文編－第 00 巻 00 号	<記入例> 広島修道大学人文学会	年 月	pp.00－00
	Kyoto University, Graduate School of Economics Discussion Paper Series	京都大学大学院経済学研究科	2021 年内	
※研究期間が 1 年未満の場合、本用紙を調査研究完了報告書と兼ねることができます。 (成果発表報告時 研究代表者使用欄) ☐ 上記の通り成果発表を 行う ・ 行った (ひろしま未来協創センター使用欄) ☐ 成果発表資料を受け取った。(年 月 日)				

2020 年度 調査研究活動報告書

広島修道大学ひろしま未来協創センター長 殿

研究(代表)者所属 : 経済科学部

研究(代表)者名 : 平塚 順良

下記のとおり今年度の調査研究費による調査研究が終了しましたので、ここに報告いたします。

当該研究期間	2020 年 6 月 2 日から 2021 年 3 月 31 日までの 1 年間分		提出年月日	2021 年 2 月 26 日	
研究課題	【ひろみら特別研究】 ベトナム漢文学の研究				
研 究 組 織	研究代表者及び研究分担者		役 割 分 担		
	氏 名	学部・職名			
	(研究代表者) 平塚 順良	経済科学部・助教	調査研究・論文執筆		
	(研究分担者) なし				
(代表者・分担者計 1 名)					
今 年 度 の 研 究 成 果 要 旨	※要旨の文字数は 600～800 字程度でお願いします。 2020 年度科学研究費・基盤研究(C)の計画書では、ベトナムの漢喃研究院へ出張して、ベトナム漢文学に関連する文献を複写して帰国し、これまで注目されてこなかった新たな資料を読み解くことで研究を展開する予定であった。しかし、コロナウイルスの影響でベトナムへの渡航が困難となったため、科研費不採択後に申請したひろみら特別研究では従来の計画を変更し、ベトナム漢文学に関する既知の重要資料を精読することによって、研究をすすめることにした。 具体的には、ベトナムの歴史書『大越史記全書』を、訳注を施しながら、ひたすら読み進めた。今後 8 年以内には全訳を完成させたいと考えており、ひろみら特別研究に採択される以前から、すでに読解をすすめていた。広島修道大学には、中国語中国文学専攻やベトナム語専攻が設置されていないので、図書館にもこれらに関する蔵書が十分に整備されていない。そこで今回ひろみら特別研究に採択された機会を利用して、訳注に必要な基本資料を購入した。現在、全 29 巻ある中の第 8 巻途中まで訳注を完了している。訳注を進めていく中で、疑問の生じたところを深く調べていくことで、論文のテーマを見つけ出したいと考えている。現在のところ、まだ論文に結びつくような決定的発見はない。調査期間の終了から一年以内に成果物を発表しなければならないとのことなので、『大越史記全書』の訳注作業を継続し、その中から論文のテーマを見つけ出したい。 ひろみら調査研究の成果は、学会発表か論文の形式で公表しなければならないとのことだが、ひとまず「訳注大越史記全書」の第一回目を雑誌に投稿することにし、今後順次連載することとしたい。				
成 果 発 表 予 定	発 表 論 文 題 目	訳注大越史記全書 (1)			
	発表誌名 発表学会名	発行所 学会名	発表時期	備 考	
	『経済科学研究』25 巻 1 号	広島修道大学	2021 年 9 月	投稿予定	
※研究期間が 1 年未満の場合、本用紙を調査研究完了報告書と兼ねることができます。 (成果発表報告時 研究代表者使用欄) ☒ 上記の通り成果発表を <u>行う</u> ・ 行った (ひろしま未来協創センター使用欄) ☐ 成果発表資料を受け取った。(年 月 日)					

2020 年度 調査研究活動報告書

広島修道大学ひろしま未来協創センター長 殿

研究(代表)者所属 : 経済科学部

研究(代表)者名 : 劉亜静

下記のとおり今年度の調査研究費による調査研究が終了しましたので、ここに報告いたします。

当該研究期間	2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの 1 年間分		提出年月日 2021 年 2 月 28 日	
研究課題	【ひろみら領域研究・ひろみら特別研究】 新時代の中小企業金融 ―企業間信用、信用保証及び P2P レンディングの日中比較研究―			
研 究 組 織	研究代表者及び研究分担者		役 割 分 担	
	氏 名	学部・職名		
	(研究代表者) 劉亜静	経済科学部・准教授		
	(研究分担者)	学部・		
今 年 度 の 研 究 成 果 要 旨	(代表者 1 名)			
今 年 度 の 研 究 成 果 要 旨	※要旨の文字数は 600～800 字程度でお願いします。 本研究では、近年の中小企業金融の発展状況および融資環境の変化を踏まえて、P2P レンディングが中小企業に対する有効な資金調達手段に成り得るかという問題をめぐり、中国における P2P レンディングの実態調査、データ収集および分析を通じて、日中両国の中小企業金融の特徴を比較した。また、中小企業金融の視点から、P2P レンディング市場を通じて資金調達を行う場合、中小企業の資金調達制約を緩和できるかという問題についても検証した。中国における P2P レンディング市場は、2007 年の拍拍貸 (PPdai) によるサービス開始以降 2015 年にかけて急成長した。ただし、急激な成長に伴い収益が悪化した業者の不正行為や詐欺行為などが社会問題となり、中国政府は 2016 年 8 月から P2P レンディング市場に対する規制強化を始めた。そこで、本研究では中国での P2P レンディング市場の実態に加え、これらの規制の効果についても調査した。また、これら中国における調査に加えて、日本における P2P レンディング市場の調査も行い、日本における個人事業者を含む零細・中小企業への資金供給源としての普及可能性を検討した。			
成 果 発 表 予 定	発 表 論 文 題 目	P2P レンディングの展開と中小企業金融 ―中国と日本の比較研究―		
	発表誌名 発表学会名	発行所 学会名	発表時期	備 考
	大銀協フォーラム研究助成論文集 第 25 号	大銀協フォーラム (大阪銀行協会)	2021 年 2 月	pp.01-17
※研究期間が 1 年未満の場合、本用紙を調査研究完了報告書と兼ねることができます。 (成果発表報告時 研究代表者使用欄) ☒ 上記の通り成果発表を行った (ひろしま未来協創センター使用欄) ☐ 成果発表資料を受け取った。(年 月 日)				

2021 年度 調査研究活動報告書

広島修道大学ひろしま未来協創センター長 殿

研究(代表)者所属 : 健康科学部

研究(代表)者名 : 増田 尚史

下記のとおり今年度の調査研究費による調査研究が終了しましたので、ここに報告いたします。

当該研究期間	2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの 1 年間分		提出年月日 2021 年 2 月 28 日	
研究課題	【ひろみら特別研究】 漢字の造語力に着目した語彙の創造に関する検討			
研 究 組 織	研究代表者及び研究分担者		役 割 分 担	
	氏 名	学部・職名		
	(研究代表者) 増田 尚史	健康科学部・教授	研究全般の遂行	
	(研究分担者)	学部・		
(代表者・分担者計 1 名)				
今年度の研究成果要旨	※要旨の文字数は 600～800 字程度でお願いします。 本研究の目的は、新語を創造する能力を測定するテストの開発に向けた最初のステップとして、漢字二字熟語の意味的透明性 (semantic transparency ; 語の意味がその構成要素の意味の結合によって生成される程度) の評定に関する個人差を測定することにあった。具体的には先行研究 (2011～2013 年度に実施した 1 万余語に対する意味的透明性評定) に用いた材料のうち 80 語の項目に絞って、本学学生に評定を求める予定であった。現時点では、対象とした項目に対する評定値が先行研究におけるそれと高い正の相関関係を有し ($r>.7$)、外的基準として実施した日本語 IRT テスト (NHK エデュケーショナル) のスコアとの相関関係はほとんどない ($r<.1$) という傾向が認められる。創造性の観点からは、「河童、午前、黒字、土産、凶星、師走」などに対する評定値の分散が大きく、このような項目の意味の理解が新語を創造するために必要な能力と関連を有していることが期待される。しかしながら、非対面授業の実施などに伴い調査サンプル数を十分に得ることができておらず、明確な結論を得るに至っていない。 なお、今回の日本語 IRT テスト (200～800 点) では約 600 点以上のスコアで「高 3 レベル以上」と判定されるものであり、受検した 71 名の得点は 495～773 点 (平均点=643 点, 中央値=649 点) に分布していた。さらなる検証は必要であるが、本学学生の日本語能力を測定するツールとして有効である可能性を示すものと思われる。			
成 果 発 表 予 定	発 表 論 文 題 目	漢字二字熟語の意味的透明性評価の個人差について (仮題)		
	発表誌名 発表学会名	発行所 学会名	発表時期	備 考
	広島修大論集第 62 巻 2 号	広島修道大学	2022 年 2 月	pp.00～00
※研究期間が 1 年未満の場合、本用紙を調査研究完了報告書と兼ねることができます。 (成果発表報告時 研究代表者使用欄) ☒ 上記の通り成果発表を <u>行</u>う ・ 行つた (ひろしま未来協創センター使用欄) ☐ 成果発表資料を受け取った。(年 月 日)				

2020 年度 調査研究活動報告書

広島修道大学ひろしま未来協創センター長 殿

研究(代表)者所属 : 健康科学部

研究(代表)者名 : 蓑崎 浩史

下記のとおり今年度の調査研究費による調査研究が終了しましたので、ここに報告いたします。

当該研究期間	2020 年 6 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの 1 年間分		提出年月日 2021 年 3 月 5 日	
研究課題	【ひろみら領域研究・ひろみら特別研究】 子どもの肥満傾向に及ぼす行動科学的変数の解明に関する研究			
研究 組 織	研究代表者及び研究分担者		役 割 分 担	
	氏 名	学部・職名		
	(研究代表者) 蓑崎 浩史	健康科学部・心理学科	研究計画立案からデータ分析までの本研究課題に関する すべての役割を遂行した。	
	(研究分担者) 該当なし	学部・		
(代表者・分担者計 1 名)				
今 年 度 の 研 究 成 果 要 旨	※要旨の文字数は 600～800 字程度でお願いします。 本研究は、幼児期からのトラッキングが指摘されている子どもの肥満傾向における行動科学的変数を明らかにすることを目的として行われた。本邦における従来の研究では、子どもの「生活習慣行動を測定する測度」が整備されておらず、行動科学的な観点から、肥満傾向におけるメカニズムの解明が十分に行われていない。したがって、本研究では、子どもの生活習慣行動を測定する測度の標準化を行い、次に、子どもの肥満傾向に影響する変数の各年代による影響性の発達の差異を検討することを目的とした。 本研究課題の交付内定後、調査計画を立て、調査材料の整備したうえで、広島修道大学人を対象とする研究倫理審査専門委員会に対して、本研究課題を含む研究倫理審査申請を行い、承認を得た (2020-0013)。その後、Web 調査を開始し、現在 (報告書提出時) までに 200 組弱の親子データが収集されている。データ分析の結果、一定程度の信頼性と妥当性を備えた生活習慣行動測定尺度 (日本語版) が作成された。また、子どもの年代が上がると、生活習慣行動が BMI に及ぼす影響が変化することや親の養育行動 (環境要因) や子どものセルフコントロールスキル (個人要因) が生活習慣行動および BMI に及ぼす影響が変化する傾向にあることが示された。 なお、本年度は COVID-19 の影響によって、研究課題の遂行に大幅な遅れが生じたため、十分なサンプルの収集ができていない。したがって、本研究課題は来年度も継続する予定である (個人研究費等による)。			
成 果 発 表 予 定	発 表 論 文 題 目	子どものセルフコントロールスキルおよび親の養育行動が子どもの生活習慣行動に及ぼす影響 (仮題)		
	発表誌名 発表学会名	発行所 学会名	発表時期	備 考
	<記入例> 広島修大論集—人文編—第 00 巻 00 号 健康科学研究 第 5 第 1 号	<記入例> 広島修道大学人文学会 広島修道大学	年 月 2021 年 9 月	pp. 00—00 予定 (学会発表 又は学会誌等へ 変更することが ある)
※研究期間が 1 年未満の場合、本用紙を調査研究完了報告書と兼ねることができます。 (成果発表報告時 研究代表者使用欄) ☒ 上記の通り成果発表を <u>行う</u> ・ 行った (ひろしま未来協創センター使用欄) ☐ 成果発表資料を受け取った。(年 月 日)				

2020 年度 調査研究活動報告書

広島修道大学ひろしま未来協創センター長 殿

研究(代表)者所属 : 国際コミュニティ学部

研究(代表)者名 : 宇野 伸浩

下記のとおり今年度の調査研究費による調査研究が終了しましたので、ここに報告いたします。

当該研究期間	2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの 1 年間分		提出年月日	2021 年 2 月 25 日	
研究課題	【ひろみら領域研究・ひろみら特別研究】 ペルシア語歴史書『集史』写本系統の研究				
研 究 組 織	研究代表者及び研究分担者		役 割 分 担		
	氏 名	学部・職名			
	(研究代表者) 宇野 伸浩	国際コミュニティ学部・教授			
	(研究分担者)	学部・			
今 年 度 の 研 究 成 果 要 旨	※要旨の文字数は 600～800 字程度でお願いします。 ペルシア語の歴史書『集史 Jāmi' al-Tawārīkh』はモンゴル帝国史研究にとってもっとも重要な歴史書のひとつである。近年、『集史』写本研究が盛んになり、アメリカのカモラ Stefan Kamola が『集史』の写本系統図を発表した。その写本系統図において、インドのランプル図書館に所蔵されている『集史』写本（ランプル写本）は、『集史』の編纂過程において作られた写本とされている。『集史』には初版と第二版があり、編纂者ラシードウッディーンは、初版をイルハンに献呈した後に、初版を増補改訂した第二版を完成したことが分かっている。カモラは、ランプル写本を第二版の増補修正する編纂過程で発生した写本であり、初版と第二版の間期的特徴を持つ写本とした。ところが、ランプル写本に存在するグユク・ハン紀第 3 章、モンケ・ハン紀第 3 章の記事は、初版にも第二版にも存在しない記事であり、それは他のペルシア語の歴史書（ジュワイニー『世界征服者の歴史』）から書写された文であることを発見した。第二版は『集史』の完成版と考えられているので、第二版にも存在しないこの記事は、『集史』の編纂過程ではなく、完成後の書写過程で挿入された記事であることを意味する。したがって、ランプル写本は、『集史』の編纂過程で発生した写本ではなく、完成後に書写の過程で他の歴史書を利用して未完成の部分の補って作成した写本であることが判明した。				
成 果 発 表 予 定	発 表 論 文 題 目	Genealogical Analysis of the Manuscripts of Vol. 1 'History of the Mongols' of the <i>Jāmi' al-Tawārīkh</i> including the Rampur Manuscript			
	発表誌名 発表学会名	発行所 学会名	発表時期	備 考	
	<記入例> 広島修大論集—人文編—第 00 巻 00 号 論文集 Manuscripts of the Jāmi' al-Tawārīkh by Rashīd al-Dīn Faḡl Allāh Hamadānī	<記入例> 広島修道大学人文学会 Edinburgh University Press	2022 年 3 月		
※研究期間が 1 年未満の場合、本用紙を調査研究完了報告書と兼ねることができます。 (成果発表報告時 研究代表者使用欄) ☒ 上記の通り成果発表を <u>行う</u> ・ 行った (ひろしま未来協創センター使用欄) ☐ 成果発表資料を受け取った。(年 月 日)					